

青少年の非行問題と 地域・家庭教育の課題

岩城吉幸氏（元県立希望ヶ丘学園長）



とや、母親が父親の悪口を言ったりすることが原因していると思いません。

親はもっと、子どもに、その真剣な生きさまを見せてください。そして、頼りがいのあるお父さん、やさしいお母さんになってください。

次に、子どもはどう見るべきか。一番大切なことは、偏見や固定観念で見ず、子どもの良さを探すことです。このことは、私自身が子どもに教えられたことです。

日本のしつけは、大きくなるにしたがい厳しくしていく方法ですが、西洋は小さい時に厳しく、その後は自立心を育てていくやり方で、私は後者が理想と考えます。

まず、小さい時に耐えること、がまんすることを教え、社会のルールを家庭生活の中でしっかり身につけさせる。そしてそれから、子どもたちの良さを見つけ出し、その能力を伸ばしていくことが大切

です。

家庭の機能が弱っている今、地域の果たす役割も重要です。近所どうしが手をつなぎ、ふだんから物が言い易い雰囲気をつくっていくことが、子どもたちの非行防止につながっていくのです。

家庭には「保護」と「教育」の機能があります。

子どもにとって、家庭は暖かくて安心できる場所であればなりません。またそれが家庭です。ところが最近、家が冷たくおもしろくないと言つて、家出する子が増えてきました。つまり、保護の役目を失いつつあるようです。子どもたちは、やさしさに飢えており、それを満たすために間違つた方向へ進むことも数多くあるでしょう。皆さんは、このことを十分理解してください。

家庭教育は人間教育の基本と言われますが、今、その家庭の機能が弱っています。その大きな理由の一つに、父親の権威がなくなつたことがあげられます。なぜそうなつたか。最近、子どもが親の働く姿を見ることが少なくなつたこ

す。

家で問題行動をとるようになった子はいません。確かにそうさせる原因があるわけです。

では、いったいどこにあるのか。いろいろ言われますが、一番考えなければならぬのは「家庭」ではないかと思えます。

非行に走つた子どもを、力で押えることはできません。それは一時的なものにすぎません。問題行動をとるようになった原因を突き止め、それを取り除いてやればおのずと症状は消えてくるものです。

最近の家庭は、核家族が進み兄弟が少なく、また物も豊かになりました。しかし反面、これは家庭教育にはマイナス面となつていきます。つまり、子どもに手をかけ過ぎ、自立心が育ちにくくなり、物を大切にできる心も失われがちです。物だけで人間は育たないという

教師に反抗的で避けようとする。

②罪の意識が薄く、何度も同じことを繰り返す。

③成覚意識に欠け、できる力がありながら、最後まで努力することなくすぐ放棄してしまう。

④りっぱな人に対して敬愛の念を持たず、自分は違つた世界に住んでいると考える。

⑤自分はダメな人間であり、みんなから嫌われていると考えてしま

う。

以上五つが、大きな特色としてあげられます。そして、こういう子どもたちは、放任主義の家庭、過保護の家庭に多いようです。

私たちが非行少年を見る場合、行爲だけに目をとられてしまい、その子が好んで問題行動をとっているように考えがちです。長い間、こういう子どもたちと接し、どの子を見ても一人として、自分が進

私は長い間、問題のある児童、生徒とかかわりながら仕事をしてきました。今日は、そういう経験をもとに、私が感じてきたことをお話ししたいと思います。

今や、青少年の非行問題は、新聞などマスコミで報道されているように、大きな社会問題となっております。国や地方公共団体も、いろいろな対策は講じていますが、いつこうに減っていないのが現状です。

最近の非行の特徴は、年齢が非常に下がってきたことや集団化などがあげられ、また動機が単純で遊び型の傾向が強くなっていることです。

そういう問題行動をとる子どもたちに共通している意識は……

①周囲の者、特に大人に対し強い不信任を持っている。まじめにやっても認めてもらえないと